



読み聞かせの魅力

文化部 絵本と紙しばいの会



1983年に5名の部員数で始まった「絵本と紙しばいの会」は、今年(2021年)で38年目を迎え、在籍部員数は200名を超えました。

毎回、子供たちへの読み聞かせを楽しみにしていますが、現在、新型コロナウイルス(COVID-19)の影響で読み聞かせのできない状況が続いています。

この状況でも何かできないものかと、図書室で会員へ配布するプレゼントを作ったり、絵本の勉強をしたり、少しずつですが活動しています。この場をお借りして、読み聞かせの魅力についてお伝えしたいと思います。



図書室で配布する会員へのプレゼントを作る様子



完成したかわいいプレゼント

読み聞かせの魅力

〈想像力を育てる〉

絵本では絵が動きません。だから子どもは自分の頭の中で絵を動かします。そうすることで豊かな想像力が育っていきます。

〈感情を豊かにする〉

子どもは絵本を通じて登場人物の気持ちを想像し、疑似体験します。喜怒哀楽を感じ心の変化を知ることによって、感情が豊かになります。

〈言葉の表現を知り語彙力が育つ〉

読み聞かせによって語彙力や読解力がつき、国語力がアップするという学力向上の効果もあります。また語彙力のある人は、自分の気持ちを言葉で表現することができ、相手の言葉も理解することができます。また、コミュニケーション能力を高めることにもつながります。

〈集中力が身に付く〉

子どもが物事に集中できる時間はそれほど長くありません。絵本の読み聞かせを習慣化させると、次第に集中力が身に付くようになります。



読み聞かせの様子

〈親子でコミュニケーションがとれる〉

家庭における読み聞かせの一番の魅力はこれなのではないでしょうか？絵本を読む声は、子どもに安心感を与えます。また肌のぬくもりや匂いを感じるにより親子の親密感が深まり、信頼関係が強くなります。子どもは読み聞かせによって親の愛情を感じ、自己肯定感を養うことができます。

沢山のメリットがありそうでも、家事や仕事で疲労困憊の時、何度も同じ本を読むことをせがまれると、面倒に感じてしまうことがあるかもしれません。疲れた時は無理をなさらず。でも元気のある時を見計って、お子さんと一緒に絵本を楽しんでみてください。お気に入りの何回も読むことは、言葉を身に付ける練習。自ら進んで練習するなんて子どもってすごいですね。

今回は、お母さんが読んでもちろん面白い、でも「お父さんならではの」が味わえる作品を紹介します。「この絵本はお父さんがいい!」と言われる絵本、見つけてみてはいかがでしょうか。

お父さんへのおすすめ絵本

『じゅげむ』

作/絵・川端誠 クレヨンハウス
E-KAW 1903687



よく知られた落語を題材にした絵本です。

じゅげむって、寿(ことぶき)限(かぎり)無(なし)と書いて「寿限無」なんです。テンポよく読め、親子で笑いながら楽しめます。一緒に笑える落語絵本は、お父さんにおすすめです。他にも、『はつてんじん』など。お気に入りの落語絵本を探してみてください。



『おまえうまそうだな』

作/絵・宮西達也
ポプラ社 E-MIY 1705488

大きなティラノサウルスと小さなアンキロサウルスの赤ちゃん。不意に出会った全く異なる二匹が、だんだん父と子に見えてきます。ティラノサウルスのぶっきらぼうな愛情が心に響く、是非お父さんに読んでもらいたい一冊です。



『おおきくなるっていうことは』

作/中川ひろたか 絵/村上康成 童心社
E-NAK 1602303

進級を控えた三月、服が小さくなったり、できることが増えたり。「今年はどんなに大きくなったかな?」と、親子で一年の成長を確かめてみてはいかがでしょうか。忙しい毎日ではなかなか気づけない変化を、実感できるかもしれません。新学期を迎えるこの時期に、是非読んでみてください。わが子の成長を感じられる本として、他にも『ザガズー』クエンティン・ブレイク作、谷川俊太郎訳も、おすすめです。



読み聞かせはなかなか再開できませんが、絵本の会はお子さんたちの読書を応援しています。少しずつですが、手作りのプレゼントを子ども図書館で配っています。時々図書館を覗いてみてください。

再開できるようになりましたら、読み聞かせのお知らせを致します。皆さんに会えるのを楽しみにしています。

文責・写真:文化部 絵本と紙芝居の会
津田早矢香



新型コロナウイルス(COVID-19)以前の土曜日の読み聞かせの様子
ピヨピヨハウスにて